

# 第一種公衆電話の設置状況等について

平成 2 0 年 6 月 2 4 日

N T T 東 日 本

N T T 西 日 本

# 1. 第一種公衆電話の設置状況について

- ・ 第二種公衆電話と併設設置している第一種公衆電話は約 4, 000 台（全体の約 4%）であり、人が多く集まる駅等に見られます。
- ・ 併設している第一種公衆電話は、第二種公衆電話に比べ利用額が高く、実際に多くのお客様にご利用いただいている状況にあります。

設置状況		第一種のみ 単独設置	第一種・第二種併設設置								
			2台 〔第二種公衆 電話：1台〕	3台 〔第二種公衆 電話：2台〕	4台 〔第二種公衆 電話：3台〕	5台 〔第二種公衆 電話：4台〕	6台 〔第二種公衆 電話：5台〕	7台 〔第二種公衆 電話：6台〕	8台 〔第二種公衆 電話：7台〕	9台 〔第二種公衆 電話：8台〕	12台 〔第二種公衆 電話：11台〕
設置箇所数		104,640箇所	3,112箇所	611箇所	169箇所	83箇所	27箇所	9箇所	1箇所	2箇所	1箇所
設置台数	第一種公衆電話	104,640台	3,112台	611台	169台	83台	27台	9台	1台	2台	1台
	第二種公衆電話	-	3,112台	1,222台	507台	332台	135台	54台	7台	16台	11台
主な設置場所	駅・バス停付近等の路上	7,631箇所	1,011箇所	386箇所	117箇所	68箇所	24箇所	7箇所	-	2箇所	1箇所
	公共施設前の路上	27,192箇所	619箇所	66箇所	14箇所	-	1箇所	1箇所	-	-	-
	コンビニの軒先	14,498箇所	340箇所	4箇所	-	-	-	-	-	-	-
	その他の公道上等	55,319箇所	1,142箇所	155箇所	38箇所	15箇所	2箇所	1箇所	1箇所	-	-
H19平均利用額 〔1台あたり月額〕	第一種公衆電話	1,026円	2,527円	3,679円	4,367円	5,108円	5,637円	5,671円	5,856円	3,242円	14,575円
	第二種公衆電話	-	1,841円	2,479円	2,838円	3,475円	3,092円	3,364円	2,557円	1,804円	7,032円

〔注〕 H 1 9 年 9 月 末 現 在

## 2. L R I Cモデルを利用した個々の公衆電話の収支試算結果の提出

### (1) 試算の前提条件

- ・ H 1 9 年度の個々の第一種公衆電話（市内＋離島通話）にかかる収益・費用について、以下の方法により算定。

		主な試算方法
収益	第一種公衆電話収入 （市内＋離島通話料）	・ MA 毎に、公衆電話収入額（市内＋離島通話料）を把握した上で、利用度数比により 1 台ごとに分計。
費用	管理部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ L R I Cモデルを利用し、端末・加入者回線・N T S・通話毎のコスト単金を算定。 なお、L R I Cモデルにセットするコスト単価（公衆電話機の投資単価や 1 台当たり保守費単価等）は、H 1 8 年度実績のコスト単価に、現行 L R I Cモデルで用いられる効率化を加味し、H 1 9 年度ベースとした。</li> <li>・ 算定に用いた L R I Cモデルのコスト単金の扱いは、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 端末コスト</li> <li>② 加入者回線コスト</li> <li>③ N T Sコスト</li> <li>④ 通話コスト</li> </ul> </li> </ul>
	利用部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H 1 8 年度実績の 1 台当たり全国平均コスト単価に、H 1 9 に計画した▲ 7 %の効率化を加味して算定。</li> </ul>